

### 3 景観形成計画

#### (1) 景観形成の目標

## 水と緑の多摩川を守り活かす 潤いのまち

多摩川沿い地区の景観を構成する基本的な要素は、多摩川とその両岸に展開する市街地であり、この両者の関係の有様様が、多摩川沿い地区の景観を形づくっています。両者の関係の特徴は、市街地が多摩川の河岸段丘上に広がり、両者の間に崖線緑地が存在することにあります。

河岸段丘上に広がる青梅の市街地のほぼ中央を貫く多摩川は、崖線緑地の存在もあいまって、青梅の景観を特徴づける水と緑の景観軸となっています。

多摩川沿い地区の景観形成においては、このような景観の特徴にもとづき、市を東西に貫く多摩川の水と緑に代表される自然豊かな環境・景観を守り活かすとともに、まちそのものからも、多摩川の水と緑が人々に与えてくれる潤いやすがすがしさが感じられる、多摩川沿い地区ならではのまちの景観を形成していくことを目標とします。

#### (2) 景観形成の基本方針・方向性

### 方針1 多摩川が形づくる崖線の緑を守り育てる

多摩川の流れは、多摩川の崖線緑地に縁取られた緑豊かな景観を形成しており、これが青梅市域を西から東に貫く連続した緑の帯となることで、青梅市の水と緑のシンボル軸を形成しています。

これらの多摩川の流れを縁取る崖線の緑は、生物多様性保全、水源涵養等の機能も有しており、これらの緑を積極的に守り育てていくことで、多摩川沿い地区の良好な景観形成の基盤をしっかりと整えます。

#### ◆ 方向性 1-1：崖線の良好な緑の景観の保全

多摩川沿いの崖線緑地は、現状で比較的良好な状態で残されていますが、現行の規制内容では必ずしも崖線緑地の十分な保全が担保されているわけではなく、特に私有地では、崖線緑地の樹木の伐採が見られる箇所もあります。

本地区の景観形成にあたっては、崖線緑地の民間事業者等による樹木の伐採に対する規制や伐採に対するルールを定めるとともに、適切な樹木の維持管理を促進することで、青梅市域を東西に貫く連続した緑の景観をしっかりと守り育てていきます。

## 方針2 川沿いのまちにふさわしい清らかなまちを創出する

多摩川の緑とまちが一緒に眺められる多摩川沿い地区では、多摩川の緑との関係が良好な景観を考える上での大切なポイントになります。

一方、多摩川に並行して走る幹線道路（奥多摩街道、青梅街道、吉野街道）およびこれらの幹線道路をつなぐ多摩川に架かる橋梁に至る道路からの眺めも多摩川沿い地区のイメージに大きな影響を与えます。

多摩川沿い地区については、多摩川の緑との調和を基本にした上で、特に幹線道路や多摩川に至る道路、鉄道からの眺めにおいて、川沿いのまちにふさわしい、潤いとすがすがしさを感じさせるような景観形成を進めます。

### ◆ 方向性 2-1：崖線の緑や背後の山並みに調和した街なみづくり

多摩川沿い地区では、多摩川に架かる橋梁上等から多摩川と崖線緑地、その背後の街なみと遠方の山並みが一体として眺められます。そのため、多摩川沿い地区の景観を考える上では、多摩川や崖線緑地と沿川の建物との関係性、さらに沿川の建物と背景となる遠方の山並みとの関係性を十分考慮することが求められます。

そこで、本地区の景観形成にあたっては、市条例にもとづく景観形成基準等による建築物・工作物の色彩・形態・意匠等の適切なデザイン誘導を行うとともに、都市計画の高度地区の活用等により、橋梁上など主要な眺望点からの眺めを考慮し、背後の山並みの稜線との関係を踏まえた適切な高さのコントロールを行います。

### ◆ 方向性 2-2：御岳溪谷の玄関口にふさわしい自然と調和した景観づくり

御岳溪谷は、その美しい自然景観から多くの人々が訪れる観光名所となっています。特に御岳溪谷への玄関口となる御嶽駅周辺の街なみ景観は、御岳溪谷全体の印象を大きく左右することになります。

そこで、特に御岳溪谷の周辺地区については、周辺の自然景観と調和するよう、市条例にもとづく景観形成基準等による建築物・工作物の色彩・形態・意匠等の適切なデザイン誘導を行うとともに、屋外広告物についても、明確な基準にもとづく規制・誘導を進めます。

### ◆ 方向性 2-3：多摩川に沿う幹線道路や多摩川へのアクセス道路における景観形成

多摩川沿い地区では、多摩川や崖線緑地と一体的に眺められる街なみだけでなく、多摩川に並行して走る幹線道路や多摩川に架かる橋梁に至る道路沿いの街なみが、本地区の景観イメージに大きな影響を与えます。また、青梅街道や橋梁に至る道路沿いでは、自然石を用いた石積みの擁壁が青梅市らしい景観を形づくっています。一方で、青梅街道や吉野街道といった幹線道路沿い、特にこれら街道の交差点部には、観光施設等への誘導のための屋外広告物が乱雑に設置されているケースも見られます。

そこで、多摩川に沿う幹線道路や多摩川に架かる橋梁に至る道路については、路面舗装や道路付属物等の更新にあたっての景観配慮を管理者に求めていくとともに、都の屋外広告物条例にもとづき、屋外広告物の掲出に対する適切な規制・誘導を図ります。

### 方針3 多摩川を身近に感じることができる場の充実を図る

青梅のまちの水と緑のシンボル軸である多摩川は、青梅のまちの大切な景観資源であるだけでなく、身近に自然とふれあうことができる憩いの場を提供しています。

一方、多摩川の河岸段丘上に広がる青梅の市街地では、豊かな崖線緑地の存在もあり、直接的に多摩川を眺め感じることでできる場所は、必ずしも多くはありません。そのため、多摩川に架かる各橋梁は、橋梁景観として、多摩川の自然性の高い河川景観との融和が求められるだけでなく、多摩川を眺める場として大切な機能も有しています。

多摩川とのふれあいの場として親しまれている既存の施設・空間や多摩川沿いの散策コース、また多摩川に架かる橋梁や橋詰空間を活用し、身近に多摩川を感じることができる場の充実を図ることで、多摩川とまち・人との関わりをより一層高めます。

#### ◆ 方向性 3-1：多摩川を眺める視点場の創出と魅力向上

多摩川の流れを眺め、感じることでできる場所として、多摩川沿いの既存の公園や広場を「河畔視点場」等として位置づけ、適切な下草管理等を行うことで、川への眺望を確保するなどし、多摩川を身近に感じることができる場の充実を図ります。

#### ◆ 方向性 3-2：川を楽しむ散策コースの連続性確保・川へのアクセス性向上

川を直接眺めて歩くことでできる川沿いの遊歩道は、多摩川を身近に感じることができる場としてとても重要です。一方で、御岳溪谷遊歩道など、一部区間では川沿いの遊歩道が整備されていますが、地形的な制約もあり、遊歩道の連続性については必ずしも十分とは言えません。また現状では、どの道を行けば多摩川にアクセスできるのかが分かりにくい状況も見られます。

そこで、既存の遊歩道等を活用しながら、安全・快適に通行できない区間の改善を図り、散策ルートの連続性を高めていきます。また、既存の道路を使いながらサイン等の必要な整備を行うことで、川沿いの回遊性を高めるとともに、カラー舗装の採用など、川へのアプローチ道路を明示化するような取組みを進めます。

#### ◆ 方向性 3-3：多摩川と触れ合う水辺空間の魅力向上

多摩川と触れ合うことでできる水辺空間としては、上流地域では御岳溪谷遊歩道、中流地域では釜の淵公園、下流地域では友田レクリエーション広場や市民球技場があります。これらの水辺空間については、定期的なメンテナンスや看板類等における景観に配慮した素材、製品の採用等を通じ、水辺空間としての更なる魅力向上を図ります。また川原でのバーベキューについては、直火による野火の危険があるほか、川原の石が焦げるなど、景観的な課題や火災等の恐れもあることから、河川管理者と調整の上、バーベキューに関するルールづくりを行い、看板やパンフレット等による啓発活動を行います。

#### ◆ 方向性 3-4 : 河川景観と調和した施設づくり

多摩川の護岸等の河川管理施設の形態や多摩川に架かる橋梁の色彩等は、多摩川の景観に影響を与えます。現状ではコンクリートの長大な面が目立つ修景階段護岸や、周囲の自然景観と馴染まない色彩が用いられている橋梁の高欄など、これら施設には景観的な課題も散見されます。

そこで、このような施設については、更新時に景観配慮がなされるよう、管理者と協議していきます。

### (3) 景観形成主要施策

多摩川沿い景観形成地区の良好な景観形成に向け、今後、以下のような施策に取り組んでいきます。

#### ①多摩川沿いの公園や広場等の「河畔視点場」としての位置づけと魅力づくり

まち・人と多摩川との関わりは、青梅の市街地が河岸段丘の上に展開することおよび崖線緑地が発達していることから、部分的・拠点的なものとなっています。また、多摩川沿いには幾つかの公園・広場がありますが、多摩川の流れを感じる場としては十分に整備されていないのが現状です。

そこで、橋詰広場も含め、多摩川の流れを良好に眺めることができる公園や広場等を『河畔視点場』として位置づけ、適切な下草管理等を行うとともに、必要に応じて見晴台等の整備を行い、多摩川を身近に感じることができる場の充実を図ります。

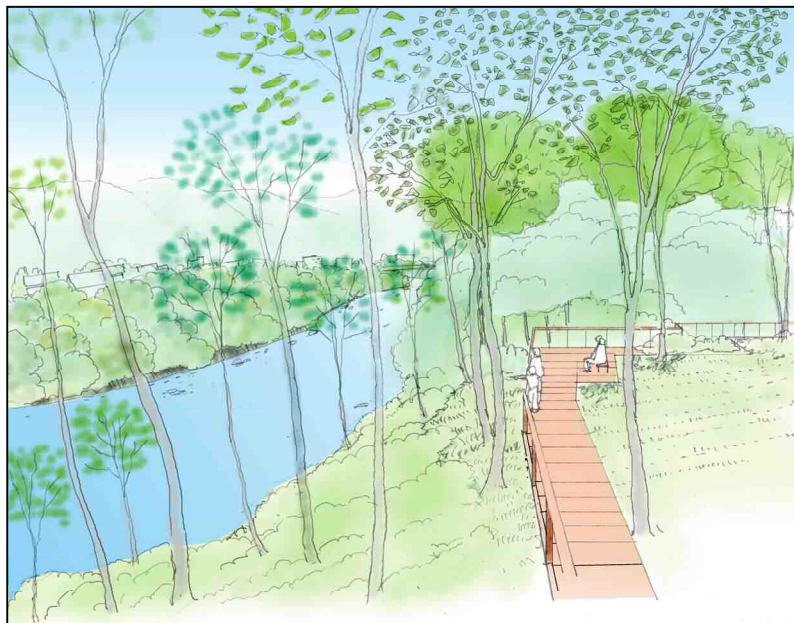
また、『河畔視点場』を含め、多摩川を良好に眺めることのできるビューポイントを紹介するマップ等を作成し、そのPRを行います。

#### ◆「河畔視点場」の設定とビューポイント整備

…多摩川を身近に感じることのできる場として整備可能な広場や公園等を抽出するとともに、それぞれの場の状況や特性に応じた整備（または管理）方法を検討し、良好なビューポイントを創出する。

#### ◆「多摩川ビューポイントマップ」の作成

…市民等を対象に、多摩川を眺めることのできる「お気に入りビューポイント」等に関する調査を行うとともに、その調査結果も活用し、ビューポイントの位置や眺めの特徴等を記載したマップを作成する。



■河畔視点場整備イメージ

## ②川を楽しむ散策ルート連続性の向上と魅力づくり

川を直接眺めて歩くことのできる川沿いの遊歩道は、多摩川を身近に感じることができるとしてとても重要です。一方で、御岳溪谷遊歩道など、一部区間では川沿いの遊歩道が整備されていますが、地形的な制約もあり、遊歩道の連続性については必ずしも十分とは言えません。また現状では、どの道を行けば多摩川にアクセスできるのかが分かりにくい状況も見られます。

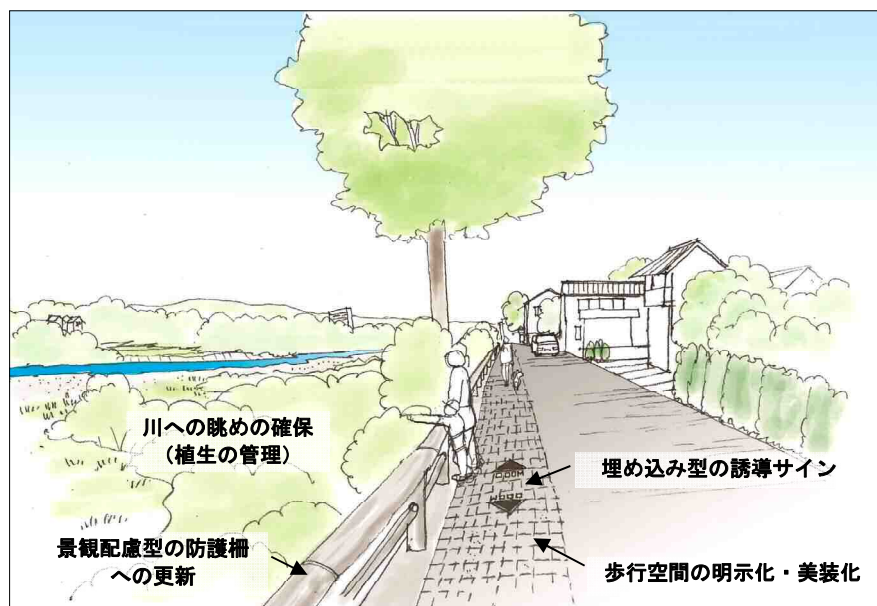
そこで、既存の遊歩道等を活用しながら、安全・快適に通行できない区間の改善を図り、上流から下流までの多摩川沿いの散策ルートの連続性を高めるとともに、多摩川沿いの道を「河畔散策路」として位置づけ、必要な景観配慮や魅力づくりを行います。また、サイン等の整備を行うことで、川沿いの回遊性を高めるとともに、カラー舗装の採用など、川へのアプローチ道路を明示化するような取組みを進めます。特に、多くの人々が訪れ、青梅市の“顔”ともなっている釜の淵公園については、現状で駅からのアプローチが分かりにくく、青梅駅周辺地区との連携が十分図られているとは言い難い状況となっています。そこで青梅駅周辺と釜の淵公園の回遊ルートを設定するとともに、現状の課題を整理した上で、分岐箇所におけるサイン整備や道路空間整備等、快適に回遊できるルートづくりを推進します。

### ◆河畔散策路整備

…多摩川沿いの道を「河畔散策路」として位置づけ、川への眺めを確保するための適切な植生管理、景観配慮型の防護柵への更新、歩行空間の明示化・美装化等を行う。

### ◆釜の淵公園周辺回遊ルート整備

…青梅駅周辺と釜の淵公園の回遊ルートを設定し、分岐箇所におけるサイン整備や道路空間整備等を集中的に実施する。



■河畔散策路整備のイメージ



### ③釜の淵公園の魅力向上

釜の淵公園は、市内外から多くの人を訪れる青梅市の“顔”となる場所であり、多摩川の魅力を感じることができる極めて重要な公園です。

そこで、公園内に設置されている柵や看板類等を景観に配慮した素材、製品に更新するなど、釜の淵公園の更なる魅力向上を図ります。

#### ◆釜の淵公園魅力アップ整備

…景観的な観点にもとづいた、釜の淵公園の現状の課題を整理した上で、園路の美装化や改修、適切な植生管理、柵や看板類等の景観配慮型製品への更新など、釜の淵公園の更なる魅力アップのための必要な整備を実施する。



■自然素材を使った誘導サイン

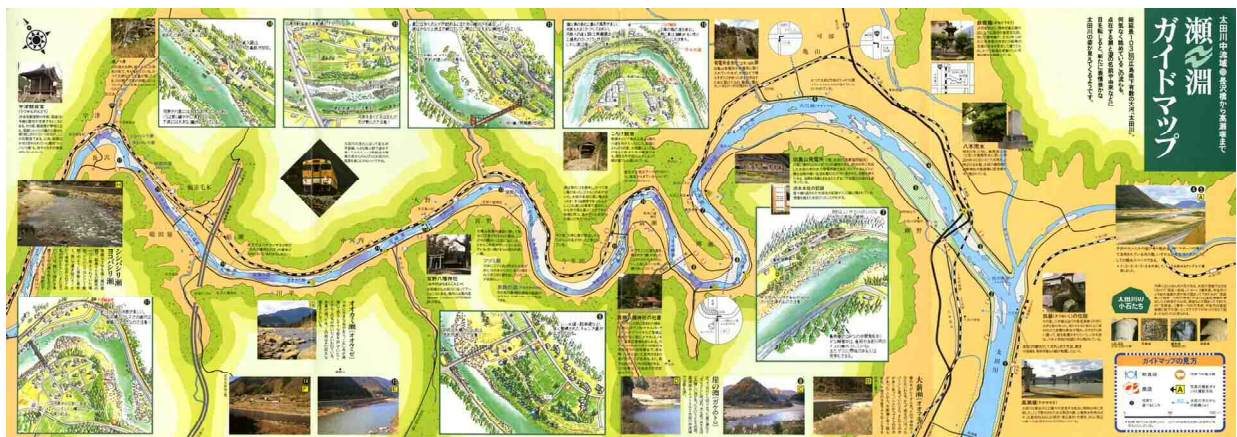
### ④多摩川に関わる地名、呼び名に関する調査とその情報発信

多摩川沿いの地域には、川に由来する地名や、川の地形や地物に「〇〇淵」「〇〇河原」「〇〇岩」など、地域の人々に昔から親しまれている呼び名が付けられています。また、かつて市内南北の交通路として重要な役割を果たした、「〇〇の渡し」といった渡し場がありました。これらの地名、呼び名は、人々と川との関わりや、その場所が持っている意味を理解する上でも非常に貴重なものです。

そこで、川に興味を持ってもらうとともに、多摩川の魅力をより深く知ってもらうことを目的とし、多摩川に関わる地名、呼び名を紹介するガイドマップ等を作成し、広く情報発信を行います。

#### ◆多摩川の地名・呼び名マップの作成

…川沿いに居住する住民等を対象とした聞き取り等を通じ、多摩川の微地形や地物の昔からの呼び名、かつてあった渡し場の位置や名称等を調査し、ガイドマップを作成する。



■川の地名や呼び名を紹介するマップのイメージ（「太田川 瀬・淵マップ」）